

坂本勝司 活動記録アルバム

横浜市議員として「戸塚」のために「誠実・行動・実績」をモットーとして活動してきた坂本勝司の10年を写真とともに振り返ります。



2011

震災ボランティアの活動
東日本大震災後復興支援で仙台市松島地区の土砂・瓦礫撤去作業

「誠実・行動・実績」をモットーに活動

2017

LGBTの取り組みについて視察

多様な性のありようを知り、セクシュアリティに関係なく、全ての人が自分らしく暮らせる街をめざす



2013

地域防災訓練で炊き出しのお手伝い
自助・共助の行動のためにも、しっかりと防災知識を得ることが重要



2014

地域の祭りに参加し住民と交流
子之神社例大祭で横浜・戸塚住民の繁栄を願い神輿を担ぐ

2016

常任委員会での視察
ハウステンボスのスマートゴミ箱とオフグリッド用再生可能エネルギー・ハイブリッド発電制御システムについて視察



2019

ライオンズクラブの活動

戸塚障害者地域活動ホームしもごうまつりに横浜戸塚ライオンズクラブとして恒例のお餅つき



2018

日本・アフリカ友好市会議員連盟によるコートジボワール訪問

現地の学校の子どもたちと仲良くピース



2021

第42回九都県市合同防災訓練

みなとみらい耐震パースにて岸田総理も視察される中の開催



坂本勝司を支援する会 会長挨拶

支援する会へのご支援・ご協力に感謝

日頃より支援する会へのご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

昨年4月に坂本議員の議員活動も10年を迎え、また3期目の折り返しを過ぎました。

これまで地域の皆様より寄せられた行政に対する陳情や本人への叱咤激励など多くの声を掛けて戴き厚く御礼を申し上げる次第であります。

新型コロナの影響により支援する会の各種行事も中止させて戴いておりますが、会員皆様のご健康とご安全をご祈念申し上げます。

最後に、坂本議員も皆様のご期待に沿えるよう、議員活動を進めて参りますので、引き続きのご支援、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



坂本勝司を支援する会 会長 吉峰 正純

Guts! Communication

Guts! 通信

討議資料

横浜市議員（戸塚区選出）
坂本勝司 市政報告 2022年 新年号
発行責任者：坂本勝司事務所

横浜市議員 坂本勝司

あけましておめでとうございます
おかげさまで議員10周年の節目を昨年迎えました
今年からまた新たに横浜・戸塚のため頑張ります

皆様方には健やかで明るい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げますとともに、2022年が皆様にとりまして、幸多いことを心から御祈念申し上げます。

日頃より横浜市議員「坂本勝司」の活動に対しご支援・ご鞭撻を賜り心より感謝申し上げます。

2011年4月の統一選挙で当選させていただき、横浜市議員となり3期10年の節目を越え、活動の基本である議会対応と地域活動の両輪をしっかりとまわしながら、横浜市の重要施策への対応と地域の課題解決に取り組んでおります。今年7月には仲間である、矢田わか子参議院議員の2期目の挑戦があります。私たちの生活だけでなく、電機産業でも必要な方です。皆様も応援を宜しくお願い致します。

コロナ禍も2年を経過しようとしており、生活環境の変化、働き方の変化、教育環境の変化と全ての世代に関わる、大変厳しい状況が続いています。また、いつ感染拡大が起きるか解らない状況でもあり、引き続き皆様方の感染防止のご協力は必至です。

仕事面ではリモートワークが定着しているものの、各ご家庭で仕事をする環境面での苦労なども伺っており、仕事と家庭の両立も大変難しいことだと思います。仕事をされている皆様のご心配事、各ご家庭での生活においてのご心配事、高齢者世帯での感染予防に対するご心配事、子どもたちの教育に対するご心配事、文化・芸術・芸能・スポーツなどの発表・大会の場の喪失によるモチベーションの低下、等々、政治的課題が大きく、一つひとつ丁寧に対応しなければなりません。国・県・市の連携を強固なものとし、皆様の負託を受けた「坂本勝司」が多くの声を届け、少しでも不安解消となる様に課題解決に努めて参ります。

コロナ禍では御座いますが、皆様にとりまして2022年が公私ともに充実されますこと、全ての皆様の幸せを心から御祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。

略歴

1967年 戸塚区生まれ。岡津中学校、岡津高等学校を卒業
1988年 (株)日立製作所 入社
1996年 日立製作所労働組合 戸塚支部 執行委員、書記長を歴任
2011年 横浜市議員初当選
2015年 横浜市議員2期目当選
2019年 横浜市議員3期目当選
2021年 所属委員会：
こども青少年・教育委員会、基地対策特別委員会
◆地域：神奈川県小学生野球連盟 副会長、戸塚区野球協会 理事、
神奈川県実業団バドミントン連盟 会長 他

坂本勝司

さかもと

かつじ

坂本勝司のめざす横浜・戸塚の3つの街づくり

安心・安全・快適に暮らせる街へ

福祉の充実と助け合いの街へ

安心して子育てできる街へ



坂本勝司 10年間の活動の成果

坂本勝司は2021年度議員生活10周年を迎えました。2011年より10年間、横浜市議員として横浜・戸塚のより良い街づくりのため奮闘してきました。その活動の成果の一部を報告します。2022年以降もより一層頑張ります。

横浜・戸塚のより良い街づくりのため奮闘

1 期目の実績 2011年～2014年

横浜市民の移動の利便性を向上



快速運転を導入したブルーライン



要望：ブルーラインは市内を走る各鉄道との主要駅でつながっている急行列車を主要駅のみの停車とすることで利用者の利便性が高まり、増収対策にもつながるのではないかと。

答弁：急行運転による所要時間短縮や具体的な運行時間帯、あるいは停車区間など余条件を整理し、必要となる信号改修や待避線の増設など、設備投資額を主に検討する。



横浜市営地下鉄ブルーラインの快速運転の導入に貢献！

郊外区間を各駅停車とし、中心地に近い区間が快速運転なり、郊外から中心部への速達性を重視した停車駅設定となった。

登壇回数 41回

質問回数 484回

主な発言

- ・東日本大震災の影響を受けている横浜港で取り扱うコンテナ物流の復興に向けた取り組みについて
- ・待機児童対策について
- ・温暖化対策に伴う次世代交通施策について
- ・横浜市中立中学校における給食の実施について
- ・地震防災戦略における今後の津波対策について
- ・戸塚駅前地区中央土地区画整理事業の進捗状況について
- ・台風26号被害に伴う緊急消防援助隊の派遣結果について
- ・市営地下鉄ブルーライン急行運転について

2 期目の実績 2015年～2018年

子育て家庭を支援



要望：厳しい財政状況ではあるが、子育て支援施策の充実は非常に重要。今後も子育て家庭の経済的負担軽減のため、所得制限撤廃や緩和、さらなる対象年齢の引き上げを早期に実現できるようにご検討いただきたい。

答弁：限られた財源の中、医療費への負担感が大きい方に対し対象年齢の拡大に力を入れてきた。今後の所得制限については、さまざまな要望・意見も参考にしつつ、今後の財政状況を見ながら検討していく。



医療費助成の対象年齢を引き上げ

小児医療費助成枠の拡大を推進！

2019年4月より小児医療費助成の対象が「小学6年生」から「中学3年生」に拡大。

登壇回数 46回

質問回数 477回

主な発言

- ・2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた取り組みについて
- ・がん検診の受診率向上に向けた取り組みの推進について
- ・受動喫煙防止対策について
- ・住み続けたいまち・みちづくり推進事業について
- ・第7期計画における介護人材確保の考え方について
- ・振り込め詐欺の状況と取り組みについて
- ・障害者の地域での暮らしに対する支援について
- ・小児医療費助成について

3 期目の実績

災害に強い都市へ情報通信技術を活用



防災スピーカーを続々設置



要望：防災スピーカーの設置はさまざまな工夫によって実現された事業である。速やかな避難行動を促す手段の一つとして、着実に整備を進めていただきたい。

答弁：多くの市民の皆様に対して緊急情報を伝達し、早期に事業効果を上げられるよう、地域防災拠点や消防出張所の周辺に住む方が多い地域から順に選定する。区と連携し、聞こえ方や聞こえる範囲等を確認しながら、整備を進めていく。



地域防災拠点など2021年4月までに100ヵ所設置！

防災スピーカーの設置場所は、津波被害回避可能な高所依の設置を提言し、2021年度までに190ヵ所設置予定となっている。

また、情報通信技術を活用し、混雑回避や災害時の誘導等の検討を提言した。

登壇回数 31回

質問回数 286回

主な発言

- ・新型コロナウイルス感染症に関する対応について
- ・マイナンバーカード特設交付拠点の概要について
- ・台風第15号による横浜ヘリポートの被害・復旧状況について
- ・防災スピーカーの整備について
- ・みなとみらい21地区における安全で円滑な歩行者通行環境の形成について
- ・市民発意のまちづくりの推進について
- ・新型コロナウイルス感染症対応商店街等活動支援事業について
- ・横浜国立大学の検査キット研究開発・実用化支援事業について



スマートシティに向け、取り組みを進める



要望：福祉のまちづくりを進めるには情報通信技術のソフト施策や災害時の活用が必要である。Lアラートと連動し、ハードの整備とあわせソフトの検討が必要だ。

答弁：市内の大学がレーザーセンサーにより人の流れを把握する実験を行っている。この結果を踏まえ、地域のエリアマネジメント団体と連携を図りながら、円滑な歩行者誘導など情報通信技術の活用について検討していく。



2022年のTOPICS

ユニバーサルデザインを推進

横浜市、戸塚区に住む皆様が住みやすい街になるように横浜駅周辺の回遊性やユニバーサルデザインを含めた魅力を高めます。特に戸塚区では土砂災害警戒区域の指定が276ヵ所と市内で最も多く、建築局の崖地防災対策工事助成金制度などと連携して、チーム横浜として災害に強いまちづくりを進めていきます。